

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 20 日現在

機関番号：43919

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21330014

研究課題名（和文） 虐待防止法の総合的研究—国際比較と学際領域のアプローチを軸に—

研究課題名（英文）

The synthetic research into legislation governing to prevent abuses

- An approach by comparison between the foreign countries and the interdisciplinary fields -

研究代表者

古橋 エツ子 (FURUHASHI ETSUKO)

名古屋経営短期大学・健康福祉学科・教授

研究者番号：90219121

研究成果の概要（和文）：

本研究は、「虐待」に関する問題状況の把握と「虐待」を防止する法政策のあり方を、比較法および学際領域の観点から総合的に検討するものである。本研究の特色は、児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、配偶者間暴力を個別に把握するのではなく、これらの問題を家族の変容から生じる「虐待」と総合的に解釈し、分析するところにある。最終的には、わが国における虐待をめぐる総合政策の展開に必要な基盤整備のあり方につき検討し、具体的な施策の提言を行なった。

研究成果の概要（英文）：

The aim of this research is to order and analyze the legislation governing to prevent abuses, through an approach by comparison between the foreign countries and the interdisciplinary fields.

This research has characteristics of synthetic viewpoints, concerning the cause which is not only personal but also due to the changes in family structure.

Finally, this research suggests a remedy for the legislation governing to prevent abuses.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	6,200,000	1,860,000	8,060,000
2010年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
2011年度	1,900,000	570,000	2,470,000
年度			
年度			
総計	13,200,000	3,960,000	17,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：法学・社会法学

キーワード：(1)社会法学 (2) 虐待 (3) 暴力 (4) 比較

1. 研究開始当初の背景

2000年の「児童虐待の防止等に関する法律」(以下「児童虐待防止法」とする)、2001年の「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(以下「DV法」とする)、2005年の「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」(以下「高齢者虐待防止法」とする)、2011年の「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」(以下「障害者虐待防止法」とする)など、近年、虐待・暴力に関して家庭に介入する法制化が次々になされている。さらに、社会法・行政法・民法・刑法等の研究動向でも、児童・高齢・障害・女性への虐待や権利侵害への関心は高い。

だがこれらの研究動向では、いまだ個別虐待をテーマとして取り扱うという形でしか検討が進んでいない。これらの虐待が生ずる背景や対応につき、共通項目と差異項目を明確にし「虐待」そのものを総合的・横断的に分析したものはいまだ少ない。

2. 研究の目的

このような背景に対し、本研究は、「虐待」に関する問題状況の把握と「虐待」を防止する法政策のあり方を、比較法および学際領域の観点から総合的に検討する。本研究の特色は、児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、配偶者間暴力(以下「DV」とする)を個別に把握するのではなく、これらの問題を家族の変容から生じる「虐待」と総合的に解釈し、分析するところにある。最終的には、わが国における虐待をめぐる総合政策の展開に必要な基盤整備のあり方につき検討し、具体的な施策の提言を行うこととする。

3. 研究の方法

本研究の期間内に、次の3点を明らかにした。

①児童・高齢者・障害者・女性における「虐待防止法」につき、国際比較の視点から、その現状と位置づけを明らかにする。(平成21年～22年度)

②日本国内における「虐待防止法」の現状を、民法・刑法・行政法の他法研究者および法医学・精神医学分野の研究者と共同のうえ検証する。そしてその進捗状況、現状と位置づけを確認し、学際領域の視点から浮かび上がってきた課題点を明らかにする(平成21年～22年度)

③わが国における虐待をめぐる総合政策の展開に必要な基盤整備のあり方につき検討し、具体的な施策の提言を行う。(平成23年度)

具体的な研究組織として「比較法研究グループ」と「学際研究グループ」の2つの研究グループを立ち上げ、調査研究、資料収集な

どのほか、研究会や合宿を実施してきた。なお国際比較としては、スウェーデン、アイルランド、フィンランド、イギリス、ドイツ、フランス、オランダ、アメリカ、中華人民共和国、韓国の10か国を対象国としている。研究者メンバーが北海道から沖縄までの広範囲に亘っているため、調査研究などの進捗状況の報告と方向性の確認を行うため、全メンバーによる全体会も実施していった。

2つの研究グループでは、わが国の虐待・暴力に関する法制度が実効性ある対応をしているのかを明確にするために、積極的な予防、発見、一時保護、被害者への自立支援、場合によっては施設への措置、また加害者への援助・指導・更生プログラムなどの長期的な支援などを広く「社会保障法学」の検討対象としてとらえている。同時に、国際的な動向との関連、諸外国における虐待・暴力への法整備などの比較および学際領域へのアプローチなど、総合的に検討してきた。

4. 研究成果

本研究の中間段階での成果を公表するため、第57回日本社会保障法学会のシンポジウムにおいて「近親者からの虐待・暴力に対する法制度の課題—各国比較をふまえて—」(2010年5月15日、於：名古屋大学)の報告を行った。その際、当該学会のシンポジウム配布資料として中間報告書『近親者からの虐待・暴力に対する法制度の課題—各国比較をふまえて—』を作成し、配布している。なお、本シンポジウムの成果を踏まえた論文については、『日本社会保障法学会学会誌』第26号(2011年3月発行、法律文化社)に掲載されている。

ついで、第113回日本法政学会におけるシンポジウムにおいても、「虐待防止法に関する総合的研究」(2010年11月27日、於：琉球大学)をテーマに報告を行っている。このシンポジウムの成果も『法政論叢』第47巻第2号(2011年5月発行、日本法政学会)に掲載されている。

最終的な研究成果は、古橋エツ子編『虐待防止法の総合的研究—国際比較と学際領域のアプローチを軸に—最終報告書』(2012年3月、名古屋経営短期大学)として、190頁にわたる報告書にまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計51件)

①第57回日本社会保障法学会シンポジウム(2010年5月15日、於：名古屋大学)を踏まえた雑誌論文は以下の6件である。

・古橋 エツ子「シンポジウムの趣旨と構成」

(『日本社会保障法学会学会誌』第26号、法律文化社、査読無、5-10頁、2011年)

・ 金川 めぐみ 「虐待・暴力に関する国際基準からの考察」(『日本社会保障法学会学会誌』第26号、法律文化社、査読無、11-25頁、2011年)

・ 廣瀬 真理子 「近親者からの虐待・暴力の定義と位置づけ」(『日本社会保障法学会学会誌』第26号、法律文化社、査読無、26-38頁、2011年)

・ 高田 清恵 「近親者からの虐待・暴力の早期発見と一時保護」(『日本社会保障法学会学会誌』第26号、法律文化社、査読無、39-51頁、2011年)

・ 片桐 由喜 「近親者からの虐待・暴力における保護と支援」(『日本社会保障法学会学会誌』第26号、法律文化社、査読無、52-66頁、2011年)

・ 本澤 巳代子 「虐待・暴力法制の各国比較からみえた課題」(『日本社会保障法学会学会誌』第26号、法律文化社、査読無、67-82頁、2011年)

②第113回日本法政学会シンポジウム

「虐待防止法に関する総合的研究」(2010年11月27日、於：琉球大学)を踏まえた雑誌論文は以下の6件である。

・ 和田隆夫・金川めぐみ 「シンポジウム「虐待防止法に関する総合的研究」」(『法政論叢』第47巻第2号、日本法政学会、査読無、93-101頁、2011年)

・ 倉田賀世 「社会保障法学的見地からみた児童虐待法制のあり方」(『法政論叢』第47巻第2号、日本法政学会、査読無、102-118頁、2011年)

・ 脇野幸太郎 「高齢者虐待への法的対応と介護政策上の課題」(『法政論叢』第47巻第2号、日本法政学会、査読無、119-135頁、2011年)

・ 神尾真知子 「配偶者からの暴力に対する法的対応と課題：フランスにおける法的対応との比較から」(『法政論叢』第47巻第2号、日本法政学会、査読無、136-154頁、2011年)

・ 呉紅敏 「障害者虐待への法的対応と課題」(『法政論叢』第47巻第2号、日本法政学会、査読無、155-170頁、2011年)

・ 増田幸弘 「虐待防止法に関する総合的研究からみる検討」(『法政論叢』第47巻第2号、日本法政学会、査読無、171-186頁、2011年)

③その他研究組織のメンバーにおける報告として主なものは以下の通りである。

・ 金川めぐみ 「母子自立支援の実施状況における自治体間比較」(『研究年報』14号、和歌山大学経済学会、査読無、2010年、727-742

頁、2010年)

・ 神尾真知子 「子育てしやすい国・フランスー選択の自由を保障する家族政策」都市問題研究、平成23年秋号、査読無、70-85頁、2011年

・ 神尾真知子 「児童虐待に対するフランスの取組み」女性空間28号、査読無、137-150頁、2011年

・ 神尾真知子 「〈シリーズ〉ファミリー・バイオレンス 海外の動向ーヨーロッパ」『ジュリスト』1411号、査読無、168-171頁、2010年

・ 倉田賀世 「男女共同参画社会の構築とワーク・ライフ・バランス」ジュリスト1424号、22-28頁、査読無、2011年

・ 倉田賀世 「子育ての社会化のための方策ードイツ法に基づく検討ー」『社会保障法』25号、日本社会保障法学会、査読無、97-109頁、2010年

・ 倉田賀世 「家族問題への規範的アプローチの可能性ードイツ法に基づく一考察ー」『家族<社会と法>』25巻、査読無、150-162頁、2009年

・ 呉紅敏 「社会保険法の制定からみた中国社会保障制度の現状と課題」『大阪経済法科大学論集』第45巻、査読無、39-67頁、2011年

・ 高田清恵 「スウェーデンにおける児童虐待への対応ー2009・2010年現地調査の概要ー」『琉大法学』86号、査読無、97-171頁、2011年

・ 高田清恵 「スウェーデンにおける児童虐待防止に関する法制度の特徴と現状ー予防から被害児童へのケアまでー」(その1)『月刊国民医療』278号、査読無、17-23頁、2010年

・ 高田清恵 「スウェーデンにおける児童虐待防止に関する法制度の特徴と現状ー予防から被害児童へのケアまでー」(その2)『月刊国民医療』279号、査読無、17-24頁、2010年

・ 橋爪幸代 「近親間虐待への法的対応」『現代法学』20号、査読無、197-216頁、2011年

・ 橋爪幸代 「ひとり親家庭に対する社会保障給付と養育費の徴収ーイギリスの児童扶養制度の試行錯誤を通してー」『上智法学論集』53巻4号、査読無、2010年

・ 橋爪幸代 「児童福祉法の一部を改正する法律ー子育て支援(特集 時の法律)」『ジュリスト』1374号、査読無、32-38頁、2009年

・ 橋爪幸代 「保育ニーズの多様化と保育サービスー現状と課題(特集 ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて)」『ジュリスト』1383号、査読無、29-34頁、2009年

・ 橋爪幸代 「ひとり親家庭と自立支援」菊池馨実編著『自立支援と社会保障』日本加除出版、147-172頁、査読無、2008年

・ 橋爪幸代「親権者等の同意に基づかない被虐待児童の処遇における課題—日英制度比較—」『家族＜社会と法＞』No.22、132 頁-144 頁、査読無、2006 年

・ 廣瀬真理子「オランダにおける最近の地域福祉改革の動向と課題」『海外社会保障研究』第 162 号、国立社会保障・人口問題研究所、査読有、43-52 頁、2008 年

・ 廣瀬真理子「オランダの女性就労の高まりと「ワーク・ライフ・バランス」政策」『世界の労働』Vol.58,No.6、日本 ILO 協会、査読無、34-39 頁、2008 年

・ 古橋エツ子「児童虐待における法的課題—諸外国の比較をふまえて—」『京都学園法学』第 3 号、査読無、157-171 頁、2011 年

・ 古橋エツ子・金川めぐみ・中尾治子「高齢者の孤立死に関する防止対策—和歌山県の実態から—」『名古屋経営短期大学紀要』第 52 号、査読無、129-142 頁、2011 年

・ 片山由美・二宮邦夫・古橋エツ子「家庭内における子どものヒヤリ場面と事故防止対策」『名古屋経営短期大学紀要』第 51 号、査読無、133-155 頁、2010 年

・ 古橋エツ子「社会保障法における男女差別の課題」『日本の民主的基盤形成の探究』査読有、145-162 頁、2010 年

・ 古橋エツ子「ライフステージにおける社会保障法—自己決定と第三者支援のはざま—」大曾根寛・金川めぐみ・森田慎二郎編『社会保障法のプロブレマティク—対立軸と展望—』(久塚純一教授還暦記念論文集) 法律文化社、査読無、43-57 頁、2008 年

・ 増田幸弘「児童扶養手当とジェンダー」『ジェンダーと法』7 号、査読無、89-101 頁、2010 年

・ 増田幸弘「『家族』の変化と社会保障法の適用」『週刊社会保障』2547 号、査読無、44-49 頁、2009 年

・ 増田幸弘「祖父母による孫育児」『週刊社会保障』2492 号、査読無、42-47 頁、2008 年

・ 増田幸弘「政策対象としての祖父母」『法政論叢』45 巻 1 号、査読無、63-75 頁、2008 年

・ 松澤明美・田宮菜奈子「ケアラーへの支援とヘルスサービスリサーチ」『日本公衆衛生学会雑誌』58 巻 9 号、査読無、805-809 頁、2011 年

・ 松澤明美、田宮菜奈子他「法医剖検例からみた高齢者死亡の実態と背景要因～いわゆる孤独死対策のために～」『厚生指標』56 巻 2 号、査読有、2009 年

・ 松澤明美、田宮菜奈子他「支援費制度下における在宅障害児(者)の母親の育児負担感とサービス利用～制度転換におけるサービス利用の変化を中心に～」『小児保健研究』67 巻 3 号、査読有、458-470 頁、2008 年

・ 矢嶋里絵「＜シリーズ＞ファミリー・バイオレンス海外の動向—アメリカ」『ジュリスト』1409 号、査読無、102-106 頁、2010 年

・ 矢嶋里絵「障がいのある子どもの育児と家族支援」日本社会保障法学会編『社会保障法』23 号、法律文化社、査読有、115-130 頁、2008 年

・ 矢嶋里絵「21 世紀の社会保障法研究に問われるもの(6) 障がいのある人の生きる権利と法」『法律時報』79 巻 2 号、査読無、116~119 頁、2007 年

・ 矢嶋里絵「障害のある人と社会保障」井上英夫・高野範城編『実務社会保障法講義』民事法研究会、187-206 頁、査読無、2007 年

・ 横田光平「子どもの意思・両親の権利・国家の関与—「子の利益」とは何か」『法律時報』83 巻 12 号、査読無、10-17 頁、2011 年

・ 横田光平「『関係』としての児童虐待と「親によって養育される子どもの権利」」『ジュリスト』1407 号、87-94 頁、2010 年

・ 横田光平「民法成年年齢引下げと公法学の課題」『筑波法政』48 巻 2 号、査読無、25-40 頁、2010 年

・ 横田光平「児童福祉法一部改正法 社会的養護」『ジュリスト』1373 号、査読無、39-47 頁、2009 年

・ 横田光平「国家による家族への介入と国民の保護～統治機構の変容と個人の権利保障～」公法研究 70 号、査読有、117-127 頁、2008 年

[学会発表] (計 15 件)

①第 57 回日本社会保障法学会シンポジウム (2010 年 5 月 15 日、於：名古屋大学) での学会報告は 6 報告からなる。

「近親者からの虐待・暴力に対する法制度の課題—各国比較をふまえて—」

報告論題と報告者は以下の通りである。

第 1 報告 古橋 エツ子「シンポジウムの趣旨と構成」

第 2 報告 金川 めぐみ「虐待・暴力に関する国際基準からの考察」

第 3 報告 廣瀬 真理子「近親者からの虐待・暴力の定義と位置づけ」

第 4 報告 高田 清恵「近親者からの虐待・暴力の早期発見と一時保護」

第 5 報告 片桐 由喜「近親者からの虐待・暴力における保護と支援」

第 6 報告 本澤 巳代子「虐待・暴力法制の各国比較からみえた課題」

②第 113 回日本法政学会シンポジウム

「虐待防止法に関する総合的研究」(2010 年 11 月 27 日、於：琉球大学) は 5 報告から成る。

報告論題と報告者は以下の通りである。

- 第 1 報告 倉田賀世「児童虐待への法的対応と課題」
第 2 報告 脇野幸太郎「高齢者虐待での法的対応と介護政策上の課題」
第 3 報告 神尾真知子「配偶者からの暴力への法的対応と課題」
第 4 報告 呉紅敏「障害者虐待への法的対応と課題」
第 5 報告 増田幸弘「虐待防止法に関する総合的研究からみる検討」

③その他研究組織のメンバーにおける報告として主なものを、以下 4 件を記載する。

- ・ Kiyoe Takata, Characteristics and Issues of the Child Abuse Prevention Legislation in Japan, The 2010 International Conference on Children in Law (16-17th of September at Örebro University, Sweden)
- ・ Etsuko Furuhashi, Abuse of Older Persons and the Problem of Legal Action, BK21 3rd GSPA International Conference on Evidence-Based Governance, 2008: Diversity, Progress & Continuity, (26-27th November at Graduate School of Public Administration, Seoul National University, Seoul)
- ・ 倉田賀世「子育ての社会化のための方策—ドイツ法に基づく検討—」日本社会保障法学会、2009 年 5 月 16 日、神戸学院大学ポートアイランド校
- ・ 橋爪幸代「児童手当にかかわる現状と改善策」、日本台湾法律家協会シンポジウム『日本台湾における社会保障給付の総点検—「安全社会」の実現に向けて』、2009 年 7 月 28 日、日本大学

〔図書〕(計 27 件)

- ・ 加藤智章・菊池馨実・片桐由喜・尾形健『新版 社会保障・社会福祉判例大系』旬報社、査読無、全 1895 頁、2009 年
- ・ 倉田賀世『子育て支援の理念と方法—ドイツ法からの視点』北海道大学出版会、査読有、全 266 頁、2008 年
- ・ Kiyoe Takata, “Legislation in Japan Relating to the Characteristics and Issues of the Prevention of Child Abuse.” 『Legislation in Japan Relating to Characteristics and Issues of the Prevention of Child Abuse F.Malekian and K.Nordlöf ed., Sovereignty of Children in Law』Cambridge Scholars Publishing, 査読無、PP.515(258-273)、2012 年。
- ・ 橋爪幸代「家庭裁判所と児童相談所」『児童虐待の防止』有斐閣、査読無、全 363 (176-187) 頁、2012 年

- ・ 橋爪幸代「イギリスにおける児童虐待防止システム」『児童虐待と児童保護—国際的視点で考える—』SUP 上智大学出版、査読無、全 273 (61-80) 頁、2012 年
- ・ 古橋エツ子監修『スウェーデンにおけるケア概念と実践』ノルディック出版、査読無、全 367 頁、2012 年
- ・ 古橋エツ子 (編著書)『新・初めての人権』法律文化社、査読無、全 157 頁、2012 年
- ・ 古橋エツ子 (編著書)『虐待防止法の総合的研究—国際比較と学際領域のアプローチを軸に—最終報告書』名古屋経営短期大学、査読無、全 177 頁、2012 年
- ・ 古橋エツ子編『近親者からの虐待・暴力に対する法制度の課題—各国比較を踏まえて』第 57 回日本社会保障法学会シンポジウム報告集、全 121 頁、査読無、2010 年
- ・ 古橋エツ子『孤立死防止マニュアル』和歌山県・名古屋経営短期大学、査読無、全 50 頁、2009 年
- ・ 木村愛子・古橋エツ子『ディーセントワークとジェンダー平等—男女平等社会の実現をめざして—』ILO 協会、査読無、全 82 頁、2009 年
- ・ 福田志津枝・古橋エツ子『これからの高齢者福祉 [改訂版]』ミネルヴァ書房、査読無、全 214 頁、2009 年
- ・ 本澤巳代子・新田秀樹編著『トピック社会保障法 [第 6 版]』信山社、査読無、全 272 頁、2012 年
- ・ 本澤巳代子・新田秀樹編著『トピック社会保障法 [第 5 版]』信山社、査読無、全 261 頁、2011 年
- ・ 本澤巳代子「日本における介護保険」『老人介護と介護保険—中国・ドイツ・日本のモデルと事例—』上海社会科学院出版社、査読無、全 260 (85-102、225-245) 頁、2010 年
- ・ 本澤巳代子「未成年後見と社会的権利擁護の可能性」『親権・後見統一論の現代的再構築』(平成 18~20 年度科学研究費補助金(萌芽研究)報告書)、査読無、全 186 (4-13) 頁、2010 年
- ・ 本澤巳代子・脇野幸太郎「法的観点からみた福祉・介護サービスの質の評価システムのあり方—ドイツとの比較考察を通じて—」『福祉・介護サービスの質向上のためのアウトカム評価拠点』(厚生労働科学研究費補助金平成 21 年度総括・分担研究報告書) 査読無、全 228 (175-183) 頁、2010 年
- ・ 本澤巳代子・新田秀樹編著『トピック社会保障法 [第 4 版]』信山社、査読無、全 259 頁、2010 年
- ・ 本澤巳代子・ベルント=フォン=マイデル編『家族のための総合政策 II—市民社会における家族政策—』信山社、査読無、全 281 頁、2009 年

- ・ Miyoko Motozawa, Behinderung und Familie(障がいと家族), 『Politik und Recht für Menschen mit Behinderung in Europa und Asien (欧州とアジアにおける障害を持つ人のための政策と法)』 Nomos (ドイツ), 査読無, 全 509 (399-410) 頁, 2009 年
- ・ 本澤巳代子「家族のための地域同盟と多世代の家」『ドイツにおける家族政策の展開とワーク・ライフ・バランス推進に関する調査研究報告書』財団法人こども未来財団、査読無、全 119 (97-119) 頁、2009 年
- ・ 本澤巳代子・新田秀樹編著『トピック社会保障法 [第 3 版]』信山社、査読無、全 251 頁、2009 年
- ・ 本澤巳代子・脇野幸太郎「「地域の見守り活動」と孤独死・孤立死予防」『法医剖検事例の公衆衛生学的時系列分析に基づく高齢者孤独死撲滅のための実証的予防政策立案』(厚生労働科学研究費補助金平成 19 年度～20 年度総合研究報告書)、査読無、全 151 (61-68) 頁、2009 年
- ・ 本澤巳代子・倉田賀世『家族のための総合政策～企業と市民社会ネットワーク構築を目指して～』(平成 20 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書) 査読無、全 114 頁、2009 年
- ・ Miyoko Motozawa, Kommunale Sozialpolitik in der japanischen alternden Gesellschaft (日本の少子高齢社会における地方の社会政策), 『Dezentralisierung im Vergleich- Kommunale Selbstverwaltung in Deutschland und Südostasien am Beginn des 21. Jahrhunderts (比較のなかの地方分権-21 世紀初頭の独と南東亜における地方の自己決定)』 Dunker & Humboldt-Berlin (ドイツ), 査読無, 全 436 (385-397) 頁, 2008 年
- ・ 本澤巳代子「親の離婚に巻き込まれる子どもの現状」『離婚家庭の子どもの気持ち』、日本加除出版、査読無、全 184 (2-15) 頁、2008 年
- ・ 横田光平『子ども法の基本構造』信山社、査読無、全 645 頁、2010 年

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

[その他]
 ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

・ 古橋 エツ子 (FURUHASHI ETSUKO)
 名古屋経営短期大学・健康福祉学科・教授
 研究者番号：90219121

(2) 研究分担者

・ 本澤 巳代子 (MOTOZAWA MIYOKO)
 筑波大学・大学院人文社会科学部・教授

研究者番号：70200342

・ 神尾 真知子 (KAMIO MACHIKO)

日本大学・法学部・教授

研究者番号：80219881

・ 廣瀬 真理子 (HIROSE MARIKO)

東海大学・教養学部・教授

研究者番号：50289948

・ 金川 めぐみ (KANAGAWA MEGUMI)

和歌山大学・経済学部・准教授

研究者番号：70335496

(3) 連携研究者

・ 片桐 由喜 (KATAGIRI YUKI)

小樽商科大学・商学部・教授

研究者番号：80271732

・ 倉田 賀世 (KURATA KAYO)

熊本大学・法学部・准教授

研究者番号：10431298

・ 呉 紅敏 (WU HONGMIIN)

大阪経済法科大学・教養部・准教授

研究者番号：00469256

・ 高田 清恵 (TAKATA KIYOE)

琉球大学・法文学部・教授

研究者番号：30305180

・ 橋爪 幸代 (HASHIZUME SACHIYO)

東京経済大学・現代法学部・准教授

研究者番号：30407340

・ 増田 幸弘 (MASUDA YUKIHIRO)

日本女子大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：40264171

・矢嶋 里絵 (YAJIMA RIE)

首都大学東京・都市教養学部・教授

研究者番号：40254130

・岩下 雅充 (IWASHITA TOMOMITSU)

信州大学・大学院法曹法務研究科・准教授

研究者番号：00396615

・田宮 菜奈子 (TAMIYA NANAKO)

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授

研究者番号：20236748

・松澤 明美 (MATSUZAWA AKEMI)

茨城キリスト教大学・看護学部・助教

研究者番号：20382822

・横田 光平 (YOKOTA KOHEI)

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・准教授

研究者番号：10323627

・脇野 幸太郎 (WAKINO KOTARO)

長崎国際大学・人間社会学部・専任講師

(4) 研究協力者

・杉本 輝世 (SUGIMOTO KIYO)

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・博士課程

・高橋 大輔 (TAKAHASHI DAISUKE)

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・博士課程